

名古屋学院大学  
学長  
木船久雄



「敬神愛人」の精神を具体化し、  
人を愛することや、  
生きる意味を考えてもらいたい

**本** 学は「敬神愛人」を建学の精神とするキリスト教主義の大学です。敬神愛人とは、人間には及ばぬものがあることを認識し、謙虚に物事に向き合うこと。また他者に配慮し、寄り添うことを指しています。東日本大震災では自然の脅威や科学の限界、あるいは人間は一人で生きられないという事実を改めて突き付けられました。物資を分け合う被災者の姿にも心を打たれました。私は、今こそ敬神愛人の精神が注目されるべきときだと強く感じています。学生には、募金やボランティアなどの活動を通じてこの精神を具体化し、人を愛することや、生きる意味をしっかり考えてもらいたいと思っています。人を愛するにはきつかけが必要です。

その二つが挨拶だと考えている私は、学長就任直後、朝の挨拶運動を実施しました。ごく基本的なことですが、大学生のルールやマナーも伝えるようにしました。人に支えられて生きるのが人間だとすれば、他者に配慮できない人間は人として十分ではありません。社会に送り出す以上、改めて徹底したかったのです。これまでの大学には、教員は何もせず、いわば「背中で教える」という風土がありました。学生の学びを能動的にさせるには大切なことです。けれど、そうした自主的な学び方に慣れていない今の学生にはなじまないかもしれせん。もつと、背中を押すような仕組みを用意して然るべきだと思うのです。そこで学生支援センターと教育学習センター

を立ち上げ、学生支援にいつそう力を入れています。全員にノートパソコンを配付し、CCS（キャンパスコミュニケーションシステム）という独自のネットワークを通じて一人ひとりに最適な情報を提供しています。CCS上に設けられた自主学习システムには、経済学基礎や国家試験対策など、教員作成による問題を数万題用意してあります。

もちろん、大学で学ぶべきは単なる知識ではなく、学び方であり、生き方です。そのためには外部の力も積極的に借りたいと思っています。本学には4万人弱の卒業生があり、なかには企業トップも多くいます。そうした生の声を届けるよう今後ネットワークを強化していきます。いろいろな人に介在してもらい、刺激を与えることで成長を促すような教育です。その最たるものが留学でしょう。留学の利点は異文化に触れ、半ば強制的にカルチャーショックを受けられる点にあります。異文化を必死で理解する過程で、他者への配慮も生まれます。本学は世界75大学と協定を結ぶ地域屈指の国際色豊かな大学。恵まれた環境を生かしてほしいですね。

今後、キラリと光るものがあり、地域から愛される大学でありたいと思います。

【学長プロフィール】きぶね ひさお ●1955年生まれ。早稲田大学大学院商学研究科博士課程前期修了。(財)日本エネルギー経済研究所勤務を経て、92年名古屋学院大学経済学部助教授。98年同教授。情報教育センター長、経済学部長、大学院経済経営研究科長を経て、2011年より現職。

【大学プロフィール】1887年創立の私立愛知英語学校を前身に1964年開学。経済学部(経済学科、政策学科)、商学部(商学科、経営情報学科)、外国語学部(英米語学科、中国コミュニケーション学科、国際文化協力学科)、スポーツ健康学部(スポーツ健康学科)、リハビリテーション学部(理学療法学科)の5学部9学科。